

令和5年度(2023年度)

小学生すくすくウォッチ(第5・6学年)泉大津市の結果概要



今年4月17日から4月25日にかけて実施された小学生すくすくウォッチについて、泉大津市の児童のみなさんの調査結果の概要がまとまりましたので、お知らせいたします。

○目的

子どもたち一人ひとりが、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの予測困難な社会を生き抜く力を着実につける。

○対象学年・参加児童数

第5学年 泉大津市 541人 大阪府 66,514人

第6学年 泉大津市 571人 大阪府 67,329人

○実施内容

第5学年 国語・算数・理科・わくわく問題(教科横断型問題)・アンケート

第6学年 理科・わくわく問題(教科横断型問題)・アンケート

○各教科・わくわく問題(教科横断型問題)の出題内容及びアンケート内容について

国語 ・言語能力・読解力の基盤となる、基礎的基本的な言葉等の理解を問う問題

・文章に書かれている意味を正確に捉える力(リーディングスキル)をはかる問題

算数 ・関数・数と計算・図形に関する基礎的な知識技能や、数学的な表現や意味理解、日常の事象を数学的に処理する技能を問う問題

・基礎・基本的な概念や性質を問う問題、数学的な見方・考え方を働かせ、グラフ、表、式、言葉に関連させて考える問題

理科 ・見通しをもって観察、実験を行うことや、その結果を数学的に表したり、分析したことを記述したりすることを問う問題

・生活場面とつなげたり、観察、実験を想定した場面設定の中で、基礎的な知識や科学的な見方、考え方を問う問題

わくわく問題

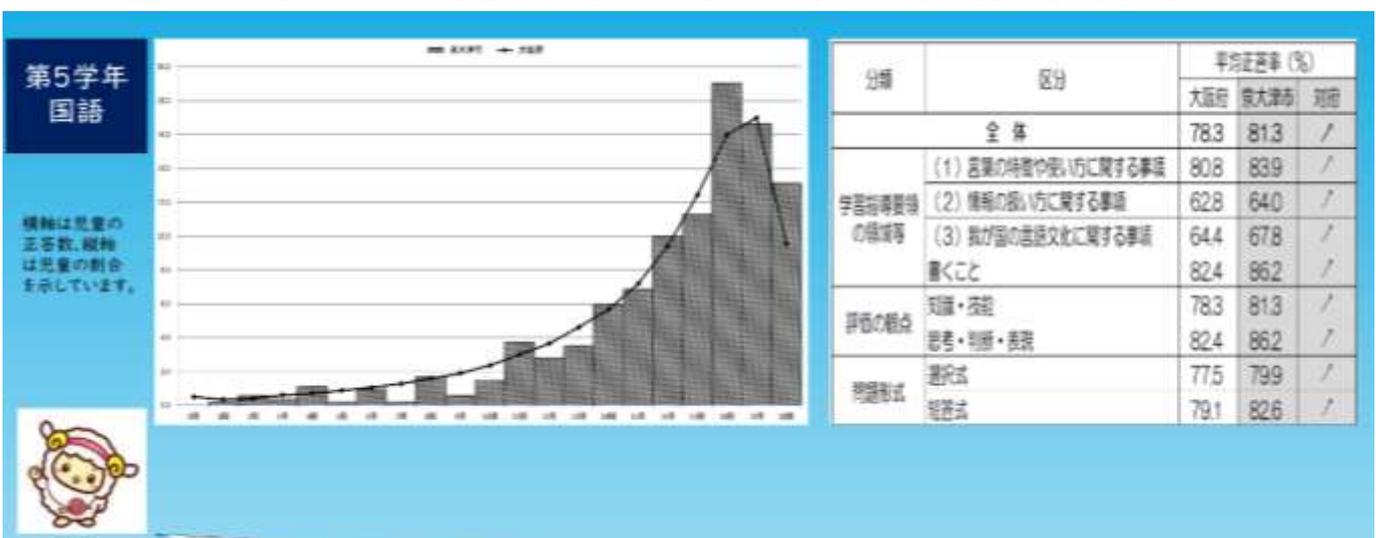
教科の枠を超えた日常の活動や現代的な諸課題(SDGs、プログラミング的思考)等をテーマにした問題

文章やグラフ等の様々な資料を題材に、資料を読み取ったり、自分の考えを表現する力を問う問題

アンケート

非認知能力である「未来に向かう力」、授業での活動、家庭での様子等、一人ひとりの状況がわかる様々な問い方に基づく項目等

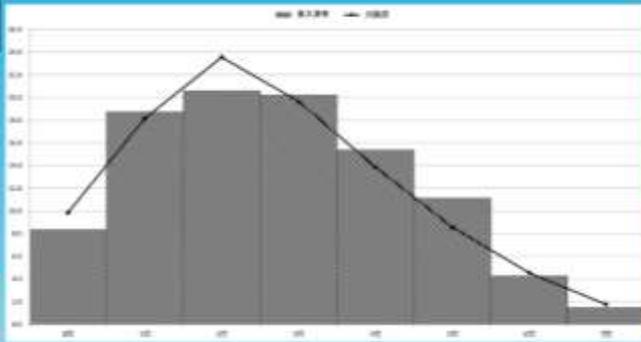
第5学年 各教科(国語・算数・理科)



- どの分類においても大阪府の平均正答率(以下、正答率と表記)を上回っています。
- 文中の助詞を正しく使う問題(問2(1)(2))、一文を二文に分けて書くとき文と文の意味のつながりを考え、適切な接続語を使う問題(問9)等については、正答率が高くなっています。
- 書かれた文の意味を正しく捉え、適切な漢字を使って書く問題(問1)、日常で使うローマ字を正しく書く問題(問4(2))、故事成語の意味を正しく理解する問題(問5(2))等では、正答率が低くなっています。

第5学年 算数

横軸は児童の
正答数、縦軸
は児童の割合
を示しています。

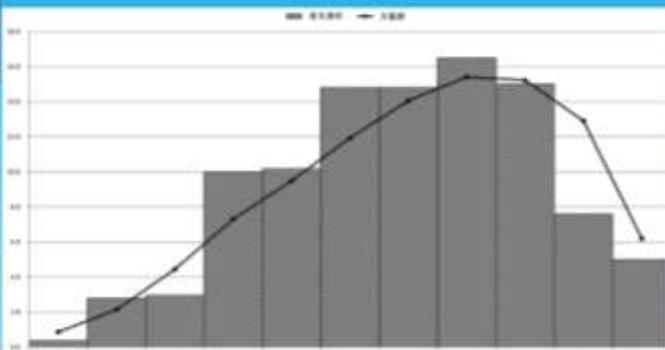


分類	区分	平均正答率 (%)		
		大阪府	豊大津市	対府
全体		37.5	39.0	/
学習指導要領 の領域	数と計算	39.5	41.5	/
	図形	39.9	39.7	\
	測定/変化と関係	26.7	30.0	/
	データの活用	24.4	28.0	/
評価の観点	知識・技能	48.0	51.0	/
	思考・判断・表現	11.1	9.2	\
問題形式	選択式	24.4	28.0	/
	短答式	53.9	56.8	/
	記述式	11.1	9.2	\

- 図形領域で大阪府の平均正答率をやや下回っていますが、その他の領域では上回っています。
- 割り算を使う問題の場面を理解して立式し商を求める問題(問1(1))や、長方形と正方形の絵画のそれぞれの面積の求め方を理解し2つの面積の差を求める求める問題(問2(3))で、正答率が7割を超えています。
- 問題文やグラフから読み取れる情報をもとに計算に必要な数量を求めるとともにその求め方を説明する問題(問1(3))や、正三角形と様々な四角形を構成する要素や性質を理解し正三角形を組み合わせても現れない四角形を考えその理由を説明する問題(問2(4))で、正答率が低くなっています。

第5学年 理科

横軸は児童の
正答数、縦軸
は児童の割合
を示しています。



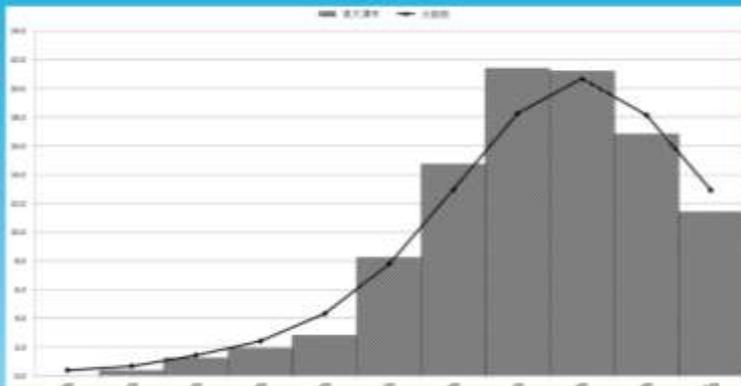
分類	区分	平均正答率 (%)		
		大阪府	豊大津市	対府
全体		62.3	59.6	\
学習指導要領 の領域	「エネルギー」を柱とする領域	60.9	66.6	\
	「生命」を柱とする領域	57.2	54.9	\
評価の観点	知識・技能	57.6	54.0	\
	思考・判断・表現	73.2	72.7	\
問題形式	選択式	63.7	60.6	\
	短答式	55.5	50.3	\
	記述式	64.9	64.3	\

- どの分類においても大阪府の平均正答率を下回っています。
- 季節による植物の成長の違いを理解する問題(問2(2))では、大阪府の正答率を上回っています。
- ソーラークラッカーの原理からより早くあたためる工夫を考えて書き表す問題(問1(4))や、季節による植物の成長の違いを観察カードから考え書き表す問題(問2(5))といった、記述式(思考・判断・表現)の問題で無回答率が高くなっています。

第6学年 理科

第6学年 理科

横軸は児童の
正答数、縦軸
は児童の割合
を示しています。



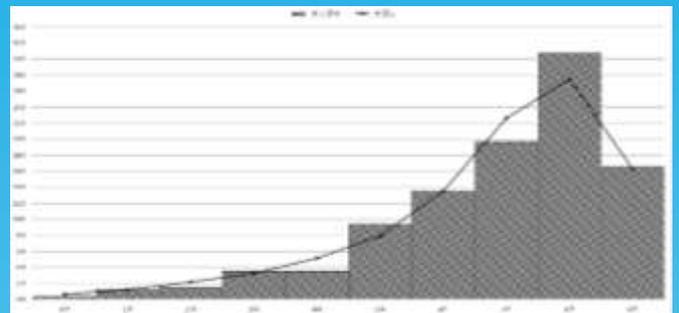
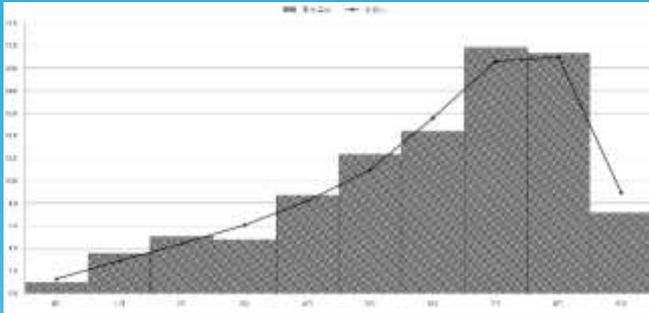
分類	区分	平均正答率 (%)		
		大阪府	東大阪市	堺市
	全 体	73.1	73.3	/
学習指導要領 の領域	「エネルギー」を柱とする領域	72.8	73.5	/
	「地球」を柱とする領域	73.3	73.3	-
評価の観点	知識・技能	74.4	74.3	\
	思考・判断・表現	69.9	71.2	/
問題形式	選択式	66.3	65.7	\
	記述式	81.5	81.4	\
	記述式	62.7	63.7	/

- 全体としては、大阪府の平均正答率をやや上回っています。
- 月の観察記録に必要な内容を理解する問題(問2(2))や、月の形の名称について理解する問題(問2(3))で、正答率が高くなっています。(準正答を含む)
- 方位磁針の正しい使い方を理解する問題(問2(1))や、気象衛星の雲画像とアメダスの降水量の画像から今後の天気の変化について考察する問題(問2(6))で、正答率が低くなっています。

第5学年・第6学年 わくわく問題（教科横断型問題）

第5学年 わくわく問題

第6学年 わくわく問題



分類	区分	平均正答率 (%)					
		第5学年			第6学年		
		大阪府	泉大津市	対府	大阪府	泉大津市	対府
	全体	67.1	66.5	\	75.6	76.7	/
観点	A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	75.9	75.1	\	84.0	84.6	/
	B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	51.8	51.0	\	61.9	63.2	/
	C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	70.6	70.5	\	80.2	81.8	/
	D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	63.9	63.7	\	73.1	74.6	/
	E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	87.3	88.5	/	91.7	93.3	/
問題をとらえる	文章から読み取る	72.7	71.7	\	81.9	82.9	/
	会話から読み取る	70.0	69.7	\	77.7	78.7	/
	図や表から読み取る	62.1	61.3	\	71.4	72.4	/
伝える	資料の情報を整理して伝える	60.1	59.5	\	68.5	69.2	/
	自身で考えたことを伝える	74.2	73.9	\	83.1	84.7	/
	理由や根拠を明確にして伝える	65.5	64.6	\	76.4	77.5	/
問題形式	選択	72.4	71.8	\	80.5	81.0	/
	図表	87.3	88.5	/	91.7	93.3	/
	記述	64.4	63.9	\	73.2	74.6	/

- わくわく問題は、第5学年と第6学年に同一問題で実施されました。
- どの分類においても、第6学年の正答率は、第5学年の正答率と比較して上回っています。
- 第5学年は、ほぼ全ての分類において大阪府の正答率を下回っていますが、「興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝える」観点と「図表」の問題形式については大阪府の正答率を上回っています。
- 第6学年は、全ての分類において大阪府の正答率を上回っています。
- 第5学年・第6学年ともに
 - ・ある事柄について、意欲的に工夫して相手に伝える問題では、正答率が高くなっています。
 - ・図や表から読み取り、資料の内容を関連付けて論理的に考え、それをもとに自分の考えをまとめ伝えることを目的とした問題（問3(1)）において、正答率が低くなっています。



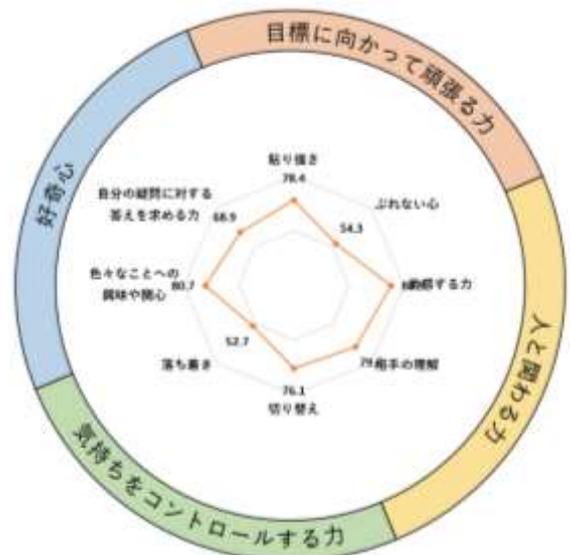
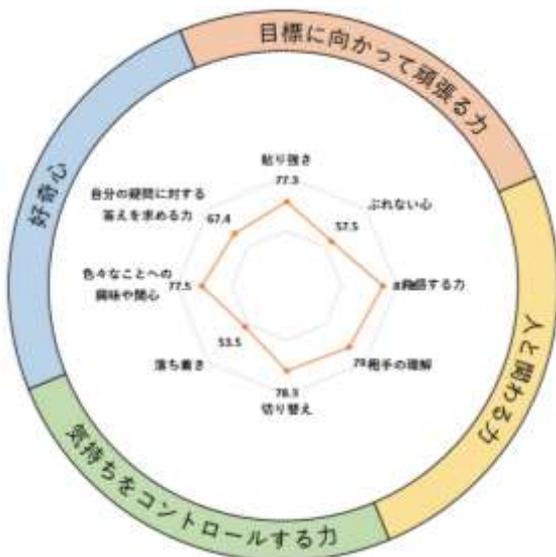
児童アンケート結果から

児童アンケート結果では、目標に向かって頑張る力・人と関わる力・気持ちをコントロールする力の「未来に向かう力」と「好奇心」の項目平均(当てはまる・どちらかといえば当てはまるの合計)から、大阪府を基準とした泉大津市の特徴をまとめています。



第5学年

第6学年



○ 第5学年・第6学年ともに、人と関わる力の「共感する力」や「相手の理解」が他の項目と比べて、やや高い結果となっています。

一方で、目標に向かって頑張る力の「ぶれない心」や気持ちをコントロールする力の「落ち着き」、好奇心の「自分の疑問に対する答えを求める力」は、他の項目と比べて低い結果となっています。

※このテスト及びアンケート結果は、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

